

令和6年度青森市学校給食運営懇談会概要

- 1 開催日時 令和6年7月23日(火曜日) 18:00～19:00
- 2 開催場所 青森市教育研修センター 4階 第2研修室
- 3 出席者 工藤裕司 青森市教育委員会教育長
齋藤美鈴 青森市教育委員
伊藤 愛 青森市PTA連合会
須藤隆文 青森市小学校長会会長
今別幸司 青森市中学校長会会長
浅利由美子 青森県学校栄養士協議会
大久保綾子 青森市教育委員会事務局教育部長（全7名）
- 4 主な意見

【給食に要する費用について】事務局説明

- ・令和4年10月より、青森市が学校給食費を全額公費負担し、保護者の負担を軽減。
- ・給食食材料費も値上がりしており、栄養価を確保するために、6月分から教職員等の給食費を小学校301円、中学校369円に改定する。

【食育について】事務局説明

- ・学校給食課の取組としては、特別活動の時間等に栄養教諭・学校栄養職員を派遣している食に関する指導を実施するとともに、「食育の日」学校給食体験会やおやこ食育セミナーの開催、「こんだてのおしらせ」「給食だより」配付などで、家庭へ働きかけていく。
- ・地産地消の取組では、ご飯は青森市産米まっしぐらを100%使用し、11月のふるさと産品給食の日には、県産牛である八甲田牛や県産ほたてを使用した給食を提供する予定。また、希望献立アンケートの結果からポークカレー等の人気メニューを献立に取り入れ食事の楽しさ等を伝えるよう努めている。
- ・残食傾向が多い献立については、魚類や根菜類など家庭で食べ慣れない、よく噛まないといけないなどの理由が考えられるが、そしゃくや食材の栄養など成長過程において必要であるため、今後も積極的に取り入れていく。
- ・学校給食におけるリスクマネジメントとして、各学校へ窒息事故防止のための給食指導の実施や、事故発生時の対応についての共通理解を図るなど対策するように働きかけている。

【学校での食育への取組について】

- ・魚は骨があり食べにくいので残食が多い献立なのではないか。魚には骨があるということを指導し、給食の献立として紹介していきたい。
- ・窒息事故防止の指導をしながら、様々な食材を食べてほしい。
- ・給食センターの栄養士が作成してくれている放送資料や、給食だよりの内容が、食材や栄養に関して様々書いてありとても良い。食に関する様々な知識が身についていると思う。
- ・残食を減らすためにただ食べるのではなく、体格に関係なく、一人ひとりが好き嫌いなくバランスを考えながら、食べられる量が増えていけたらいいのではないか。そのような指導も必要なのではないか。
- ・給食着について、学校でも準備しているが、自分の子ども専用に準備して持たせたいという家庭が出てきている。適宜学校で対応している。
- ・例えば夏休み明けの初日の給食が、子どもの大好きなカレーだったりすると学校へ行くきっかけになるのではないか。

【今後の給食に要する経費について】

- ・給食費の公費負担は保護者としてはとても素晴らしいこと。ここ3年間で小学校41円、中学校49円上がっている。今後も社会情勢により値上げもあると思う。1食100円くらいは自己負担でもいいのではないかと思う。
- ・県が現在、交付金で県内の自治体の給食費無償化を始めているが、青森市は引き続き、市で財源を確保して継続していく。
- ・子どもたちの栄養素を考えながら、尚且つ物価高騰にも負けない給食の材料を工夫して提供してくれている。
- ・物価高騰で金額的に苦しいが、栄養価を落とさないように提供できるように工夫している。全額公費負担になってから「給食の質が下がったのではないか」と言われたが、そのようなことはなく、栄養士が工夫しながら美味しいものを提供しようとしている。また、麺業者やパン業者など事業主が高齢化し廃業した業者もあり、代替業者を探すのも難しくなっている。

【家庭での食育の取組について】

- ・こんだてのお知らせを見て、「ナンが食べたい」と言って楽しみにしている。大人だけではなく子どもも読んで楽しみにしている。
- ・参観日に保護者で給食試食会を実施した。美味しくボリュームもあり、当日はデザートもついていたため、300円でこれだけ食べられるのはうれしいと言っていた。給食の質を落とさないためにも値上げして子どもたちに提供してほしい。
- ・栄養士さんの指導を覚えて帰ってきて家族に説明をしていた。食育の取組に感謝している。

- ・「給食だより」を自然に目に入る場所であるトイレに貼り給食の献立と一緒に、「ふるさと産品給食の日」などの記事を読んでいた、親も一食に勉強できている。